

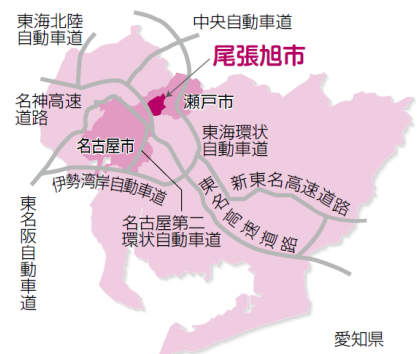
	<p>愛知県 おわりあさひし 尾張旭市 みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭</p>	<p>【データ】※平成31年4月1日現在 人口：83,592人 世帯数：35,318世帯 面積：21.03km² 市の花：ひまわり 市の木：くすのき 特産物：イチジク プチヴェール</p>
 <p>市章</p>	 <p>尾張旭市イメージキャラクター 「あさひー」</p>	<p>すくすくのびのび 尾張旭市</p>

■ 尾張旭市の紹介

尾張旭市は、愛知県の北西部に位置し、名古屋市の中心部から約15kmと、通勤、通学などに恵まれた立地にあります。

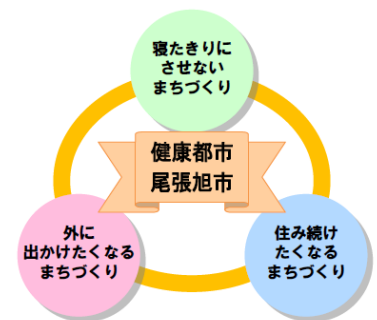
北部には、市域の6分の1(3.62km²)を占める愛知県森林公園(昭和61年全国森林浴100選の森に選定、令和元年6月2日「第70回全国植樹祭」開催)をはじめとして、樹林地や公園、大小のため池などがあり、身近なところで豊かな自然にふれあうことができるバランスのとれたまちです。



■ 健康都市のあゆみ

尾張旭市は、平成16年6月にWHO(世界保健機関)西太平洋地域健康都市連合に加盟し、同年8月に「健康都市宣言」を行いました。翌年4月には、健康都市連合日本支部設立の発起人メンバーとなり、同年12月に「尾張旭市健康都市プログラム」を策定しました。

「尾張旭市健康都市プログラム」では、「寝たきりにさせないまちづくり」、「外に出かけたいくなるまちづくり」、「住み続けたいくなるまちづくり」の3つを施策の方針に定め、まち全体で「健康都市 尾張旭市」をめざしています。



平成30年10月には、第8回健康都市連合国際大会において、市民の皆様と進めてきた住民参加のまちづくりが評価され、WHOからベスト・プラクティス賞を受賞しました。

◆ 自主グループによる筋力トレーニング

日常生活に必要な筋力の維持・増進を図り、将来にわたって自立した日常生活を送ることができるよう、市と健康づくり推進員が協働で「らくらく筋トレ体操」を広めています。地域の公民館や集会所を利用することで、地域コミュニティが形成され、生きがいづくりや閉じこもり予防も図られています。平成31年3月末現在で、65の自主グループ、約1,400人が取り組んでいます。



(仲間と一緒に筋力トレーニング)

◆ 食育紙芝居

健康づくり食生活改善協議会は、手作りの食育紙芝居を市立保育園で披露しています。食べ物を4色に分け、それと同色で手作りした衣類を着て紙芝居をすることで、わかりやすく「食」の大切さを伝えています。



(保健福祉センターで紙芝居を披露)

◆ ニュースポーツ体験会

スポーツ推進委員は、市民の体力向上や健康の維持・増進を図るため、誰でも気軽にスポーツを楽しめるニュースポーツの体験会を開催し、自ら進んで運動できるきっかけづくりとなっています。平成30年度は新たにシニア向けのニュースポーツ体験会を設けました。延べ468人が参加し、自ら進んで運動できるきっかけづくりとなっています。



(「ニュースポーツ」体験中)

◆ 健康都市とSDGs

本市は、平成30年度からSDGsの取組を推進しています。第一歩として、「健康都市 尾張旭市」の特徴的な事業である「あさひ健康マイスター」とSDGsとの関連性について、考察を行いました(右記のとおり)。ウォーキングイベントをはじめ、町内会活動や、防災活動等を幅広く対象とするあさひ健康マイスターは、SDGsの17のゴールと関連性が深いことがわかりました。



(あさひ健康マイスターとSDGsの関連性)

しかしながら、市民アンケートの結果では、

SDGsを知っている市民割合は2割程度にとどまります。このような現状を踏まえ、毎年4月29日の「尾張旭市 健康の日」に開催するあさひ健康フェスタでは、今年市内イベントでは初の試みとして、SDGsをイベント全体で取り上げ啓発しました。SDGsに関するクイズに答えながら楽しむウォーキング大会や、会場を巡るSDGsラリー、また、SDGsコーナーで「わたしのSDGs宣言」をしてもらうなど、イベント参加者にSDGsを知るきっかけを提供しました。SDGsの啓発に当たっては、よしもとクリエイティブエージェンシーとタイアップし、地元芸人が登場するわかりやすいチラシを作成する



(第15回あさひ健康フェスタSDGsコーナー) など工夫を凝らしています。